

立花ひまりさん 空手道で全国2位

学道一如

発行 高校
小樽双葉通信
生徒会 5日
2024年2月5日
第61号

12月17日、愛知県でフルコンタクト空手の第11回全日本ジュニアチャンピオンシップが開催され、立花ひまりさん（214）が北海道代表として出場し、高校女子重量級で2位に入賞した。

同階級には15人が出場し、決勝まで4回対戦した。

昨年度は2回戦敗退の悔しい思いをしたので、今季にかける思いはひとしおだった。

決勝は神奈川県との2年生と対戦し、「圧力をかけるのが足り

ず押し負けた」。

今後は全日本での優勝をねらい、どんな相手にも圧倒的に勝てるようにしっかり対策を練るといふ。得意技は上段前蹴りと胴回し回転蹴り。小学2年から空手を習い始め、毎日ランニングを欠かさない。週2回ブルで、週1回整骨院でもトレーニングし、週2回は優至会（道場）で稽古している。

【立花さんは小樽双葉高校チャレンジ奨学生です。】



右端が2位の立花ひまりさん、中央が優勝者、左が3位。



上段前蹴りを決める立花さん。

1回戦、手前赤帯が立花さん。



苫小牧東との対戦で整列する。

2月2日、3日、苫小牧市で令和5年度第19回北海道高等学校バレーボール新人大会が開催され、1回戦は苫小牧東に2-1で勝ち、2回戦は札幌国際情報に1-2で敗れ、ベスト16の結果となった。

バレー部 全道新人大会でベスト16

主将の森あずささん（212）に試合を振り返ってもらった。

「苫小牧東戦では試合の入りでミスが続き、流れが相手にいったものの、1セット目を取った。2セット目は序盤からリードされ、挽回できずに奪われた。気持ちで負けていたと思う。3セット目はみんな声を掛け合い、「取りに行こう」という気持ちでまとまり、勝つことができました。」

「札幌国際情報は冬休み中の合宿でも対戦し、負けが続いていたので、ライバル意識はあった。ここに勝ったらベスト8ということで気合いも入った。1セット目は自分たちのバレーができて先取した。2セット目は相手に弱点を読まれ、それに対応できずに奪われた。3セット目は最初の入り振るわず、そのままリードされ終わった。」

ベスト8入りの気持ち高まる

今大会で「自分たちの弱いところは気持ちだと認識した。だが、この負けで一人一人が次の高体連で絶対ベスト8入りするという気持ちは強くなった」と語る。

双葉の郷里

皆さんはコロナが明けて、イベントやライブに参加することがあったでしょうか。かれこれ4年ほど続いた新型コロナウイルスの感染防止のため、私たちの世代は修学旅行や文化祭、ライブやイベントなど生で見聞きする機会が奪われた世代になりました。

私は余市子ども劇場に入会して、小さい頃から観劇や演奏を聴く機会を持ち、また、劇や演奏に自分も参加し体験する機会を得て楽しむことができました。

先日取材したおたる子ども劇場運営委員長の杉原優子さんのお話では、生のパフォーマンスに触れる機会を奪われないように、コロナ禍であって感染対策をしながら、劇団を呼び、子どもたちに見せる機会を作ってきたということでした。様々な批判もあったようですが、生で見たり聞いたりする経験やその場の雰囲気を感じ取ることで、子どもの豊かな感受性を育てることを、コロナ禍でも続けていた姿勢が素晴らしいと思いました。子どもたちのために、コロナという大きな脅威をはね除けたおたる子ども劇場のように、信念をもって行動することが何より大切なのだと感じました。

（大塚翔太）